

2017-2018

Weekly Bulletin of KAKOGAWA CHUO R.C.

● R.I.会長/イアン・H.S.ライズリー ● 地区ガバナー/瀧川 好庸
● 会長/大西 淳滋郎 ● 幹事/井上 孝明 ● クラブ会報委員長/宮本 鹿司夫
● 事務局/〒675-0064 加古川市加古川町溝之口 800 番地 加古川商工会議所会 5F
TEL 079-421-5152 FAX 079-421-5559 E-mail info@kakogawa-chuo-rotary.club



ロータリー:
変化をもたらす

第 2111 号

平成30年 1月 11日 (木) No 23

新年例会



★ 会長挨拶



★ 庄司 武ガバナー補佐



★ 1月皆勤表彰

会長あいさつ

大西 淳滋郎

新年おめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。庄司ガバナー補佐様、随行之三枝様、お忙し中お越し頂きまして有り難うございます。本年もご指導程、宜しくお願い致します。本年度も半年が過ぎました。前の半年間の間に行いました地区補助金事業や納涼例会・尚齒例会・3クラブ合同例会・親睦旅行・年末家族例会など会員の皆様の皆様のご協力に感謝申し上げます。また、後の半年もご協力ご参加の程、宜しくお願い致します。残りの半年間では青少年奉仕事業のローターアクトクラブ設立、青少年交換などがございます。この青少年事業は複数年度での継続事業となります。宜しくお願い致します。その他にも1月25日は加古川市議会議場での職場例会、2月にはロータリーサロン、3月にはインフォーマルミーティング、4月には観桜例会と続きます。担当理事様、担当委員長様、宜しくお願い致します。また、矢野ガバナー一年度に向けての地区事業と致しまして、地区大会・会長研修会(PETS)・地区研修協議会なども控えております。特にPETS・地区研修協議会は当クラブが運営しなければなりません。皆様のお力を必要としております。ご協力ご参加の程、宜しくお願い致します。

そして、この14日から矢野ガバナーエレクトがガバナーエレクト研修セミナー(GETS)でサンディエゴまで向かわれます。矢野ガバナーエレクト、どうぞお気を付けて。

本日は会長の時間だけとなっております。お聞き苦しいかと思いますが宜しくお願い致します。私がお話することは40年前の日本ではゴクゴク当たり前であった、古から続く風習を1月から12月までお話ししたいと思っております。一般的な風習ですので地方地域によっては違う意味を持つところもあります。ご容赦ください。また、脱線することも多いですがお許し下さい。

日本には春夏秋冬だけではなく、二十四節気と呼ばれる24の季節も持っています。それも踏まえながら初めて行きます。まず、1月から始めます。1月1日、昔は『大正月』と読んでいました。家それぞれのお節料理とお雑煮で1年の始まりです。お雑煮は味噌が白か赤か合わせかお家の味を楽しまれたのでしょうか。2日は、とろろを食べる日です。

最近では2日に、とろろご飯を口にされる方が少なくなってきたと伺っております。今年は5日から二十四節気では『小寒』、寒の入りです。この日から立春前日の2月3日の『節分』まで、寒中見舞いを出す頃になります。7日は『人日の節句』です。春の七草を使った七草粥を食べられた方は多いと思っております。春の七草は、セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロです。七草粥にはお正月で疲れた胃を休める働きがあります。この節句という行事は、1年間には人日を含め・3月3日の上巳の節句・5月5日の端午の節句・7月7日の七夕の節句・9月9日の重陽の節句とあり、五節句と呼ばれております。本日、11日は鏡開きです。鏡餅を割るのですが、割るのは縁起が悪いので開くと呼びます。鏡餅の上には三種の神器に見立てた食べ物が置かれています。玉に見立てた『橙』・剣に見立てた『干し柿』・鏡に見立てた『鏡餅』、すべてに意味を持っています。15日は関西では松の内が明けます。

『小正月』と呼ばれ、『小豆粥』を食べる風習があります。小豆の赤は魔除けの色とされています。1年間の魔除けの意味で食べます。そして、今年は20日から『大寒』です。大寒卵を食べる風習があります。大寒に産み落とされた卵を食べると運気が上がるとされています。2月に入

りますと3日が節分です。実は、節分は立春・立夏・立秋・立冬の前日で年に4回あります。そして、節分の前18～19日間は土用になります。土用も7月だけではなく、年に4回あります。2月3日の節分には魔を滅する意味で『豆まき』を行い、魔除けに『イワシ』を食べ、その残った頭を柁に指し玄関口に飾る『柁イワシ』という風習もあります。ニオイが魔除けとされていたようです。節分に柁を飾り、そして翌日4日立春には椿を飾ります。木偏に冬から木偏に春に変わります。文字からも季節の変化を知ることが出来ます。最近では、節分の行事も大阪のり協同組合が考えた『恵方巻き』が主流になっています。2月と言えば、アレルギーのある方に辛い黄砂やPM2.5が飛んできます。昔の方はこの黄砂を上手に例えています。『春霞』・『おぼろ月』も黄砂の仕業です。3月に入ると3日が『上巳の節句』です。『桃の節句』とも呼ばれています。桃は邪気を払う果物とされ、古くは邪馬台国ではないのかとされる『纏向遺跡』からも多くの桃の種が出土しております。そして、桃と言えば桃太郎です。岡山県西部を治めていた吉備津彦が桃太郎と考えられております。また、桃太郎といえば『鬼』退治です。何故鬼がああ格好をしているかと申しますと、皆さんもよくご存じの『鬼門』から来ています。鬼門は家と言えば北東方向、北東は古い呼び方では丑寅(うしとら)の方角です。牛の角の頭をして虎のパンツを着ているのは北東の鬼門を意味しています。また、三色の菱餅を飾ります。緑は新緑・白は残雪・赤は桃の花を表し、それぞれに意味を持っています。3月中頃になりますと『東大寺のお水取り』があり、本格的な春を迎えます。お水取りで使った大松明は東大寺横に飾られております。3月も後半に入りますと春のお彼岸です。春のお彼岸には『ぼた餅』を飾りますが、『ぼた餅』と『お萩』は同じ物です。春の牡丹の頃には『ぼた餅』・秋の萩の頃には『お萩』と呼ぶのが正式です。そして桜の季節を迎えます。桜の開花は、『立春』からの最高気温の合計が540度になる頃に開花するとされています。開花が年によって違うのも温度によるところが大きいからです。新渡戸稲造さんの『武士道』には『武士道はその象徴たる桜のような物』と記されています。『西洋人はバラを好み、日本人は桜を好む』とも記されています。バラの下にはトゲがあり、桜は潔いところから例えられたのでしょうか。また、散っていく美しさを見て日本人は好みワビサビを思い、西洋人は万有引力を考えついたのでしょうか。感じ方が大きく違うと考えています。また、『春には苦い物を盛る』と言われ、春になると冬で溜まった老廃物を出さなければなりません。デトックス効果のある『ふきのとう・ワラビ・タラの芽』などの苦い木の芽を食べるのが良いとされています。冬眠から覚めた熊も一番に春の木の芽を食べるようです。5月に入りますと5日が『端午の節句』です。最近では鯉のぼりを見なくなりましたね。鯉が天まで昇り、龍になる立身出世のたとえとなる『登竜門』という言葉にもなっています。チマキ・柏餅を食べる風習もあります。チマキは中国から伝わった風習です。柏餅は日本の風習です。柏の木は新しい芽が出るまで古い葉を落とさないところから『子孫繁栄』を祈った食べ物です。6月は水無月と古い呼び名があります。梅雨で水の多い時期に何故こう呼ぶのか？水無月の『無』という漢字は『の』を音で変換されたとして『水の月』を意味するとされています。6月30日には1年間の半分が無事に済んだと言うことで茅の輪をくぐる『夏越し祭』が行われます。7月に入りますと『七夕の節句』です。旧暦ではお盆の入りを7月7日としておりました。七夕飾りもお盆の行事です。七夕を仙台のように月遅れで8月7日に行う地域もあります。今では関東の一部以外では8月がお盆となっております。7月中旬には京都で7月17日の山鉾巡行で有名な『祇園祭』が行われています。数年前から『後の祭り』の語源となった『後まつり』も24日に山鉾巡行が行われています。この祇園祭も実は御津町の賀茂神社が発祥で、祇園祭の前には八坂神社の宮司様がお参りされ祇園祭が始まります。8月に入るとすぐに立秋を迎えます。この立秋の前の日の節分まで18～19日が夏の土用で『ウナギ』を丑の日に食べる風習があります。これはエレキテルで有名な平賀源内が江戸時代にウナギが売れない時期にウナギを販売する方法をうなぎ屋さんから頼まれました。平賀源内は日本最初のキャッチコピーとして、『本日、土用丑の日』と張り紙を貼ったところ飛ぶように売れて現在まで続いております。9月に入りますと9日には長寿をお祝いする『重陽の節句』があります。奇数が陽の数字とされており、その陽の数字の最大の数字『9』が重なる日で重陽と呼ばれ長寿をお祝いしております。中旬を過ぎますと『お萩』を供える秋のお彼岸となります。また、9月から10月にかけては旧暦の8月15日に十五夜・9月13日に十三夜の月を愛でる風習があります。十五夜は芋の収穫祭として中国から伝わりました。十三夜は日本独自の風習です。秋祭りの頃と重なり、収穫祭のひとつと考えられております。ちなみに、今年の十五夜は9月24日・十三夜は10月21日です。11月には23日が勤労感謝の日となっています。

古くは新嘗祭と呼ばれておりました。農作物などの収穫に感謝する日です。その年の最初に収穫した米やお酒を天皇陛下が口にされ、その後国民が口にすること大切な日です。なぜか話題にもされなくなっていますね。12月末には二十四節気の『冬至』となります。冬至の日には伊勢神宮内宮の宇治橋の中心から太陽が昇ってきます。そして一年が又繰り返されていきます。最後になりますが、2018年が皆様にとって光り輝く素晴らしい一年になりますよう御祈念申し上げます。本年も宜しくお願ひ致します。会長の時間を終わります。